

食料経済学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 堀田和彦

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

本特論では、日本農業の現状をふまえ、いかにすれば日本農業が成長産業となりうるか、その視点と方向性を学ぶ。その事によって、今後我が国農業および食品産業の担い手となる可能性のある人材としての問題認識能力と解決能力の養成が到達目標である。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

日本農業再生

成長産業

経営者能力

地域農業

6次産業化

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の 内容と分量
1	コメで国際戦略を描け	コメ産業の現状	講義を通じて、受講者は「分かったつもり」で済ませるのではなく、「分かりやすく説明できる」ようになる努力を求めたい。 討論形式での講義、発表者とコメンターは事前に資料を熟読すること (毎回の準備・復習時間は、それぞれ1～2時間程度を目安とする)
2	農業を成長産業に	顧客・市場の発見	
3	農業のビジネスモデル	現状の日本農業のビジネスモデル	
4	農業のビジネスモデル	農業の活性化ビジネスモデル	
5	農業への参入機会	農業参入の現状	
6	農業への参入機会	農業参入拡大の方向	
7	日本の農政の問題点	衰退するコメ産業	
8	日本の農政の問題点	コメ農政改革の方向	
9	日本農業と政治	政治の農業政策への影響	
10	日本農業と政治	改善すべき政治と農業政策との関係	
11	成功ビジネスモデル 1	上記文献に関連した成功モデル 1	
12	成功ビジネスモデル 2	上記文献に関連した成功モデル 2	
13	成功ビジネスモデル 3	上記文献に関連した成功モデル 3	
14	成功ビジネスモデル 4	上記文献に関連した成功モデル 4	
15	成功ビジネスモデル 5	上記文献に関連した成功モデル 5	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

日本の農業は成長産業に変えられる／大泉一貫／洋泉社

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

特になし

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

講義中の発表と討論の内容 (発表内容 60%、討論質問内容 40%)

◆オフィスアワー

毎週講義日の昼休み (12時10分～13時)

◆その他受講上の注意事項

授業中に指示をする。